目にみえる障害、みえない障害

一宮市立葉栗小学校六年　鈴木　心夢

　今まで私は、『障害』と聞くと、特別支援学校交流で出会ったような、体が不自由で、見ただけでも障害だとわかるような人のことを考えていました。でもお母さんが働いている『いずみ学園』には、ぱっと見ただけではどこが障害なのかわからない子がいると聞いて「目で見ただけではわからない障害って、どんな障害なんだろう」と思い実際に体験させてもらいました。いずみ学園は、発達におくれやかたよりのある三歳から五歳の子供達を一人ひとりの特性に合わせて心身の発達をうながしたり、保護者の養育支援を目的としている施設です。そこに通っている子達は、私の考えていたような子とはちがい最初に見た時は障害のないふつうの子達に見えました。しかし、体験で接していくと上手くしゃべれなかったり、話しかけても反応しなかったり、落ち着かずに走りまわってしまい言われたことができなかったりする子が多くいました。中には上手くしゃべれていたり、話が通じる子もいました。その時私は思いました。「この子は一体何の障害なんだろう。ふつうに見えるのにどうしてここに通うのだろう」と思い聞いてみました。すると「この子はふつうそうだけど、落ち着けなくて何でもすぐに動いて危ないからここに通っているんだよ」と教えてくれました。本当に見ただけでは分からないような障害もあるんだなと思いました。

　子供達は一人ひとりがちがう障害を持っていて、教室にもたくさんの工夫がされていました。ごみ箱が子供の手のとどかない場所にあったり、タンスを開けないようにとめ具がついていたり、時間割りを言葉ではなく絵や写真を使って表したりしてありました。障害者のために身近な物にも工夫がしてあってすごいなと思いました。そして障害を持った人が生活しやすいように環境を整えたり、工夫することを『合理的配慮』ということを教えてもらいました。他にも専門の音楽療法士、作業療法士、言語聴覚士など、保育士だけではなく、色んな人が子供達の発達の手助けをしていました。私が今回体験したのは音楽療法で、音楽療法は楽器を使って演奏したり、歌を歌ったりして落ち着けない子を落ち着かせたり、体でリズムを感じ、楽しむ事を目的とした訓練をしていました。作業療法では、その子に合った運動遊びをし、言語訓練では、言葉の発達をうながす遊びをしているそうです。障害があっても、色々な経験をすることで成長したり、楽しく過ごせたりするように考えられているんだなと思いました。

　私は子供達と関わる時に何でもすぐ手伝ってあげようとしたけど、先生達は子供達ができる所は見守って、できない所だけ手伝っていました。障害があるから何でもできないと決めつけて、やってあげるのではなく、できる所は経験させて、できない所は手伝って、できることを増やしていくようにしているという事を知りました。それを聞いて私も子供達と関わる時にはその子達が自分で何かをしようとしている事を見守り、できなくて困っている時に手伝うようにしました。

　今回いずみ学園で体験をさせてもらい、体の不自由な目に見える障害だけでなく、目には見えない、ぱっと見ただけでは分からない障害をもった人もいるということを知りました。目に見える障害は周りの人もすぐ気付き手助けすることができるけど、目に見えない障害は困っていても周りの人達は気付きにくいと思います。私は、見えない障害にも気付いて手助けしたいけど、実際には気付くことは難しいと思います。でも、お母さんに色々な障害についてもっと教えてもらったり、また、いずみ学園のような福祉施設を体験したり、お手伝いをしたりして、障害で困っている人たちの力になりたいと思います。